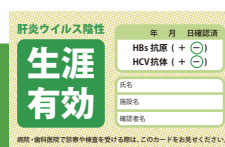


肝炎対策は 最も効果的ながん対策です

一生に一回の肝炎検査により、肝がんを無くしましょう！

陰性カード配布をお願いします



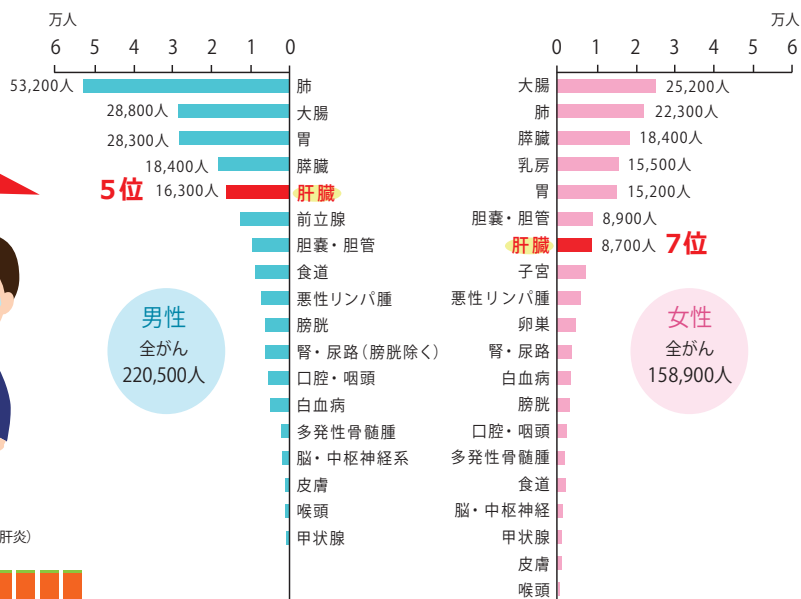
社員・会社・健保の3つのメリット

- ① 肝炎対策は、最も効果の高い肝がん対策
- ② 陰性カードを配ることで定期健診での、肝機能異常に対する肝炎検査や病院や歯科での検査を省略できる
- ③ 前期高齢者納付金を削減できる

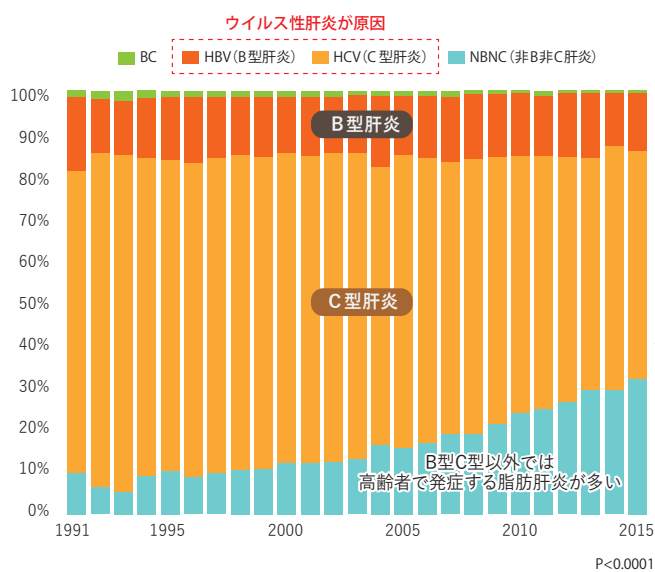
データヘルス計画に 健康経営戦略に
考えてみてください

肝炎の検査・治療が肝がんの予防になります

がんによる死亡のうち
肝がんは
男性で**5位**、女性で**7位**



部位別予測がん死亡数 (2020年)
Projected Number of Cancer Deaths by Site(2020)



肝がんの要因の推移

Tateishi et al J Gastroenterol. 2019 Apr;54(4):367-376 より引用



肝がんの70%近くは
ウイルス性肝炎が原因です

近年、非ウイルス性の肝がんの要因として増加している脂肪肝炎は高齢者に多く、若い世代では依然としてB型C型肝炎が原因となっています。

しかし

肝炎の治療法が脅威的に進歩しました!!

B型肝炎の治療

- 飲み薬でウイルス量を減らして治療を行います。
- 特に就業の制限はありません。

C型肝炎の完治

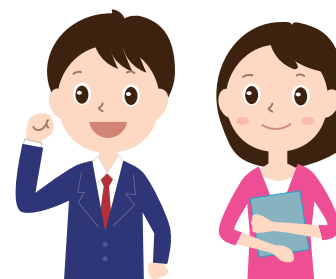
- 飲み薬を2~3ヶ月飲んで完全治療できるようになりました。
- 特に就業の制限はありません。

C型肝炎は
撲滅可能です

肝炎の検査・治療は**肝がんの予防**につながります!

早期発見が安心!
仕事と治療も両立できる!

ウイルス性肝炎は、**現在80%以上が肝機能 (ALT,AST) 正常**です。
ですので、一般の健康診断の検査では見つかりません。
肝炎ウイルス検査をすることが最も重要です。
陽性率も0.5%未満であるので、もう少しで撲滅できます。



健保組合が肝炎対策するメリット

✓ **最も確実ながん対策であること!**

✓ **前期高齢者納付金を削減できること!**

早期検査で肝炎治療をしておく
その後の肝がんに関する費用負担が減らせます

ー 肝がんの治療費について ー

肝がんは肝硬変の状態では肝臓全体において、がんが発生しやすくなります。再発というよりも複数個のがんが肝臓全体にわたって数年毎に出現するため、治療費が長期にかかり、生存率もよくありません。

進行がんには、分子標的薬という抗がん剤治療になりますが、1日約2万円の高額な医療費がかかりますので、がんの治療は、人によってかなり幅があります。30万～1,000万/年、平均100万円の費用になります。

一般の組合健保では、加入している65～75歳の方が肝がんに罹ると、上記の治療費の約5倍の金額が前期高齢者納付金として、組合健保の負担になります。

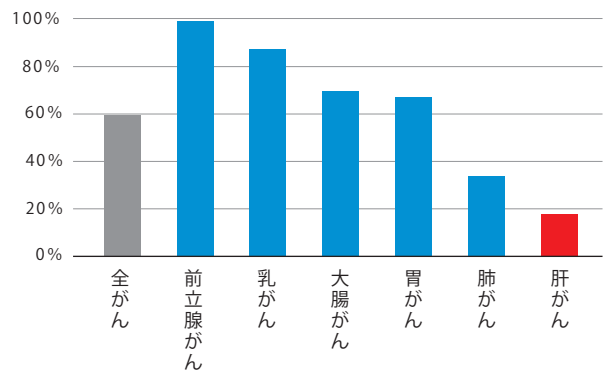
従って、早期に肝炎ウイルス検査で治療をしておく、肝炎治療費の300万円はかかりますが、その後の肝がんに関する費用負担が減ることになります。

おおよその肝がんの治療費

ラジオ波焼却療法・・・40万/回
肝動脈塞栓療法・・・60万/回
外科治療・・・120万/回
重粒子線治療法・・・300万



分子標的薬物療法・・・60万/月～



10年生存率

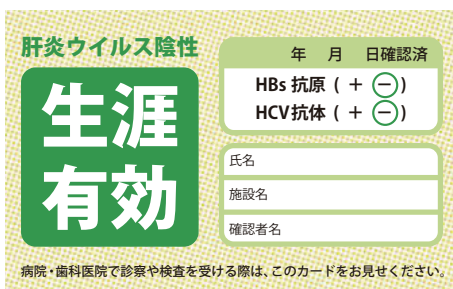
国立がん研究センター・がん情報サービス；がん統計 2022 より引用

検査は原則一生に1回でOK!

陰性であれば**陰性カード**を配布して、**無駄な検診を避けることにより医療費を削減**します。

一般人間ドック等の検診で、HBs抗原検査、HCV抗体検査は各2,000～3,000円かかります。また、病院で、手術や内視鏡をする場合に毎回肝炎検査を受ける場合があります。その時、陰性カードがあれば、無駄な検査が避けられます。(28点、108点)

陰性カードで
無駄をなくしましょう

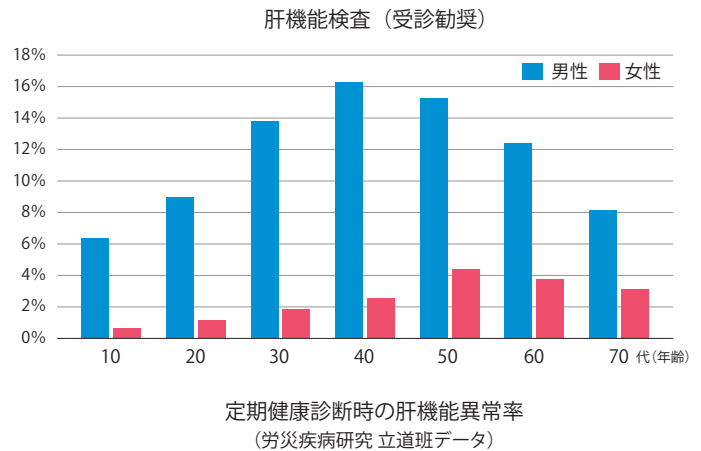


社員への肝炎対策するメリット

陰性カードをもつことによる社員のメリット

現在、定期健診での肝機能異常は、最大15%程度認められます。

そのため、肝機能異常の場合は、ウイルス性肝炎かどうか検査することが求められますので、クリニック受診して肝炎検査をすることになりますが、陰性カードがあればその負担が無くなります。



陰性カードを持つと、検査や事後措置の時間と医療費が削減できます。

初診料 + 検査料 + 時間の節約!!

検査で**陽性**であった場合、精密検査のためには以下の助成が受けられます

初回精密検査助成

肝炎検査で陽性と診断された人に対して、初回の精密検査費用の助成を1回受けることができます。

◆ 対象

医療保険の被保険者・被扶養者であって、以下の肝炎検査で陽性と診断され、フォローアップに同意している方

1. 地方自治体(都道府県または市町村)が行う肝炎ウイルス検診
2. 職域の健診で行った肝炎ウイルス検査
3. 妊婦健診時の肝炎ウイルス検査
4. 手術前の肝炎ウイルス検査

◆ 助成される検査費用

最大約80,000円が償還払い。

初診料(再診料)、ウイルス疾患指導料、および 医師が必要と判断した精密検査(採血検査、ウイルス関連検査、腫瘍マーカー、超音波検査)に関連する費用として都道府県が認めたもの。

◆ 問い合わせ先

都道府県の肝炎・肝疾患担当課



健保が行う肝がん撲滅プロジェクトの方法

がん検診に組み入れれば簡単です!

40歳・50歳時のがん検診に肝炎検査を組み込めば簡単です。現在の陽性率は、0.5%前後です。1,000人受検しても対応は5名程度となり、対応のコストは低いです。



データヘルス計画

肝炎検査は、法定外検査になりますので、健診と同時の実施の時は同意等が必要です。がん検診同様の機微性の高い情報ですので、がん検診時に同時に行うとよいでしょう。その結果は、ご本人宛に肝臓専門医での精密検査の実施の案内を行うように手配してください。(病院リストの配布)

【プロジェクトの進め方】

- ① 肝炎検査の実施の同意と陰性カードの配布 (別紙)
- ② 40歳・50歳時のがん検診・受診時に肝炎検査を追加
これまでに陰性が確認されている方は、**検査不要**
- ③ 検査結果で陰性の方は陰性カードに○
- ④ 検査結果で陽性の方は、別途受診できる医療機関を紹介するように連絡する。

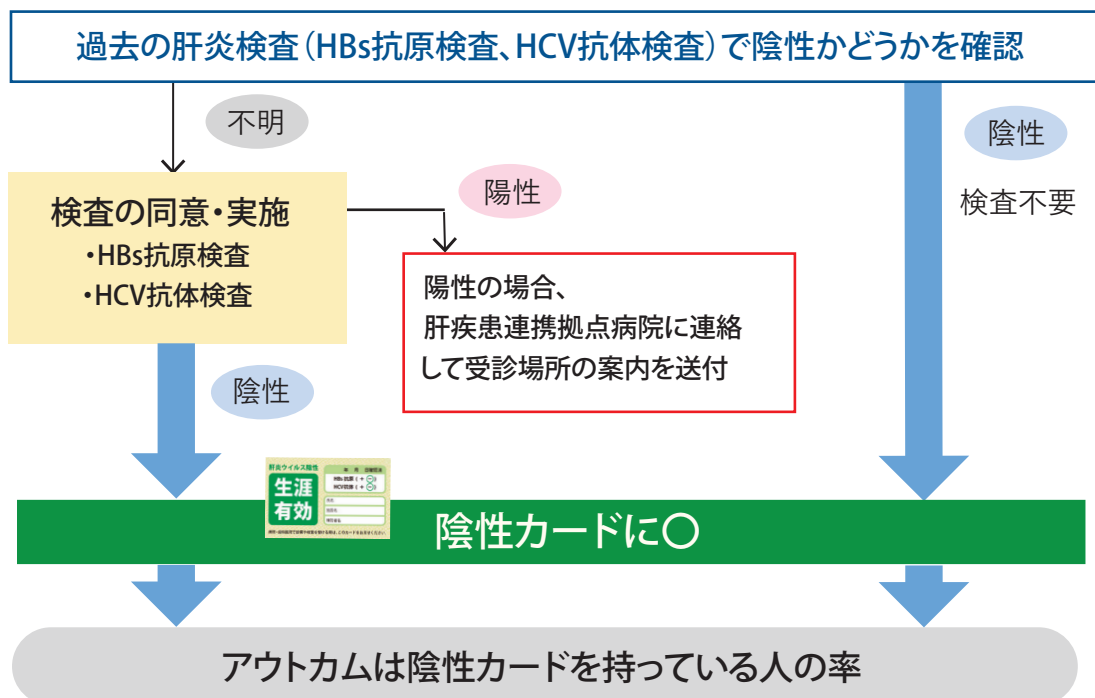
肝炎対策はがん対策であることの周知が大切です!



肝疾患診療連携拠点病院



<https://www.kanen.ncgm.go.jp/cont/060/hosp.html>

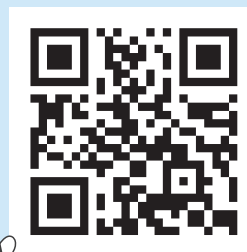


詳しくは、次ページで紹介するサイトを参照ください。

詳しい検査実施の方法は、こちらのサイトへ

働く人の肝炎検査と治療ガイド

<http://kanen5.med.u-tokai.ac.jp/>



QRコード

【問い合わせ先】

東海大学医学部 基盤診療学系 衛生学公衆衛生学

立道昌幸 ✉ tatemichi@tokai-u.jp

陰性カードの連絡先

東海大学医学部 基盤診療学系 衛生学公衆衛生学

✉ koushueisei2@tsc.u-tokai.ac.jp

同意書

ウイルス性肝炎、特にB型、C型肝炎は一般の肝機能検査では発見できないので、HBs抗原検査 HCV抗体検査によってスクリーニングします。

現在、肝炎も経口薬によってC型はほぼ100%、B型は経口薬により肝がんの発症を劇的におさえることが可能になりました。

基本的に、一生に一回の検査で感染の有無を確認してください。

陰性の方は、下記の陰性カードを財布等に入れて医療機関でご利用ください。

尚、本検査結果については、検診機関から直接個人宛に届きますが、陽性の方については、検査機関かあるいは健保組合から専門医への受診案内が送付されます。

- ・ 肝炎検査の受検に 同意する 同意しない
- ・ 検査結果が陽性であった場合、健保組合等からの受診案内送付や連絡に 同意する 同意しない

お名前



私は肝炎ウイルス検査を受ける必要ありません。

年 月 日 確認済

HBs 抗原 (+) (-) HCV 抗体 (+) (-)

氏名

施設名

確認者名

病院・歯科医院で診察や検査を受ける際は、このカードをお見せください。

肝炎ウイルス陰性

年 月 日 確認済

HBs 抗原 (+) (-)

HCV 抗体 (+) (-)

氏名

施設名

確認者名

生涯有効

病院・歯科医院で診察や検査を受ける際は、このカードをお見せください。

どちらかお好きなほうをお使いください。

このカードを使用されたい方は、左ページのメールアドレスまでご連絡ください。カード版をお送りします。

